

## Part 5 最終診断は体に聞くべし

平谷こども発達クリニック 中西 康子さん

TEL.0776-54-9600

住所 福井市北四ツ居2-1409



### 【Profile】

大阪府立羽曳野病院（現 府立呼吸器・アレルギーセンター）の小児科でアレルギーについて学び、現在まで小児科一筋。結婚を機に来福し、アレルギー専門医を求めて平谷こども発達クリニックの門をたたく。二人のやんちゃ坊主の母してます。

食物アレルギーを疑われた場合、検査を受けることとなります。検査は生後3〜4ヶ月の乳児ではまだはっきり結果が出るのが少なく、早くても生後5か月を超えて離乳食を始める前、または何かを食べて反応が出た時に行います。

検査方法は主に、皮膚にアレルギーの素を付けて反応させるブリックテスト（腫れる大きさで判断。15分で判定できる。）と血液検査（アレルギーの程度を数値で表す。結果が出るのに約1週間かかる）があります。

当クリニックでは皮膚テストの方が簡便で痛みも少ないので、まず皮膚テストをしてみても反応がなければ陰性と判断します。皮膚テストで反応が見られた場合にはアレルギーの強さや経過を見るために血液検査を行います。血液検査の数値が高ければやはりアレルギー反応が出る率は高く、除去食を考えなければなりません。ただし数値と反応の強さは必ずしも一致するものではなく、数値が高くても食べて反応が出ない事もあれば、逆に低くても思わぬ強い反応を起こすこともありま

教えて！

## 子どものアレルギー

す。よって最終判断は本人の体に聞くことです。もちろん数値の高い時には積極的には行いません。これまでの食材の摂取経験や、血液検査の経過、間違っって食べてしまった時の様子などを総合的に診て実際に食べて反応を診る検査を行う時期を決めます。これを経口負荷試験と言います。

実際に食べて反応があるかないか、これにより食物アレルギーの診断がなされます。

次回は治療についてお話ししましょう。

